

岸和田古城(和田氏居城)(岸和田氏野田町2丁目)(マンション)

南海岸和田駅の南側 600m のところ、福祉センターから塔原岸和田港線の方へ 200m ほど入った所に、周囲を水田と湿地で囲まれた小高い丘があります。ここは、南北朝時代に、楠木正成の一族和田高家が築いたもとの岸和田城の跡と伝えられています。岸和田城は後に現在地に移されたとも言われていますが、確かなことはわかっていません。

ただ、付近には「城下池」「古城」「土居ノ下」などこの付近に城があったことを示す地名が残されています。江戸時代の記録では、百姓町(現、宮本町)の東方の池之尻・小寺(現、上町)に1町(約109m)四方形度の城跡が認められたとありますので、この付近に古い城跡があったことは確かなようです。もっとも、南北朝時代には岸和田市という武士の一族が岸和田に存在したことが確実ですので、岸和田氏の居館であった可能性もあります。大正10年に大阪府によって「和田氏居城伝説地」と記した標柱が建てられています

岸和田郷土資料館「fromM」による

